

新宮山彦ぐるーぶ第1982回

大日岳・大日如来座像台座下石組みのセメント補強改修作業

◇実施日：2018年7月14日(土)～15日(日)

◇参加者：川島 功、児嶋道夫、三井幹雄、野崎 肇、椎木 堯

(太尾登山口・一泊2日)。梶野照雄(日帰り)。計6名。

15日参加者(太尾登山口)：沖崎吉信、橋本 梓、濱野兼

吉、畑林清子、大江加予子、生熊千満子、上村和美、

梶野照雄。瀧本昭太郎、斉藤和美、池尻香行、立野

栄弓(以上瀧本G)。12名。

前鬼登山口：山川治雄、岩本信行、樋口義也、竹中卓

治、高階美根子。5名。 総参加者23名。

7月14日(土) 快晴

梅雨前線停滞による豪雨によって、西日本各地とりわけ広島・岡山・愛媛県で甚大な被害をもたらしました。9日に梅雨明けが宣言されましたが、午後からは大気が不安定となり夕立等の雨が降る天候も、14日以降は安定した猛暑の夏到来になりました。

広島県・岡山県にお住まいの当会友には、幸いにも被害が無かったものの関係者等に被害が及んだとのこと、心よりお見舞い申し上げます。

新宮5時半に出発し、十津川村で民泊された広島市の椎木さんと「十津川道の駅」で合流し、釈迦ヶ岳・太尾登山口に7時半過ぎに到着すると、三井・野崎、梶野氏が既に到着され登る身支度を整えられていた。

各自にセメント2～3袋の5kg以上を担いで貰う。梶野氏が各荷の計測では、17kg前後だが児嶋さんは23kgと一番重い荷を荷揚げする事になった。セメント総計31kg荷揚げ。

釈迦ヶ岳登山者に、賛同協力依頼の砂袋(約2kg×33袋)は、6割強が荷揚げされており、荷揚げして下さった登山者に感謝申し

上げます。



太尾登山口にて



砂袋荷揚げ協力者



重い荷の児嶋氏

野崎さん先頭で歩き出す。平地は熱帯夜であったが、登山口の標高が1100m以上あり涼しく感じるが、登るにつれ汗が噴き出しびしょ濡れになり、不動谷登山口分岐で小休止。少し風が吹くと本当に涼しく汗が引いて爽やかである。

快晴無風で樹林の無い尾根の登りはとにかく暑い、古田の森で小休止し、飲料水をがぶ飲みをする。荷が重い児嶋さん約5分弱遅れて古田の森に到着。児嶋さんの担いで来た荷から梶野・野崎三井さんがセメント袋各1袋を手分けし担ぐことにした。



不動谷登山口分岐で



古田の森で小休止



少し送られて児嶋氏到着

古田の森から児嶋さん先頭に歩き出すと、荷が軽くなりペースが速くなり、必死に付いて登る事になった。

千丈平の砂袋置場には、30袋以上荷揚げして置かれていた。10日に事前準備に登って下さった梶野氏の報告では、深仙宿の香精水が流れ出ているとの事から、かくし水水場で飲料水を確保する必要がなかったので水場に寄らず捲き道を辿り深仙宿へ。1日にセメント袋等荷揚げ時に、木橋を渡る手前の登山道が崩れて危険なので、今回トラロープを張る作業をする。



千丈平・木陰で小休止



捲き道の崩落箇所



上の樹にロープ支点



崩落箇所のロープ張り作業と完了後



伊富喜秀明師碑で勤行



木橋の柱と登山道崩落箇所手前の山側棧木間にトラロープを張り、崩落箇所上の針葉樹に支点ロープを採り、棧木がズレ落ちない様に斜面上の大木切株にロープ端を結わえる。

伊富喜秀明師碑で勤行後、深仙宿に11時過ぎに到着し昼食。重い荷と暑さで食欲が進まない。

宿泊装備と食料を小屋に置き、セメント補強作業用具と担ぎ揚げたセメント袋に灌頂堂にデポしたセメント袋を追加し、計58kgのセメントを大日岳山頂に担ぎ揚げた。先日、梶野氏のデポしたセメントを併せると73kg(セメント3袋分)荷揚げされた。



深仙灌頂堂と避難小屋

昼食を終え大日岳へ

大日如来坐像と再会

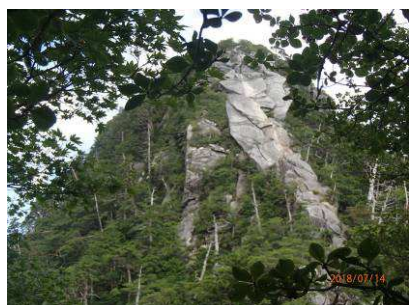
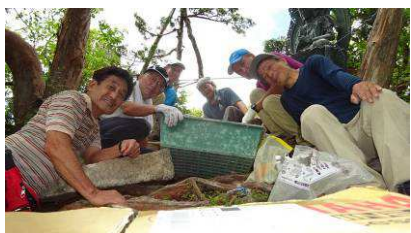
児嶋氏は金属探知機を持参され、積み石を除けて、底面の土を掘り返して探査した結果、腐食の進んだ「寛永通寶」2枚と、五円硬貨(平成2年)1枚、大日如来坐像宝冠の小片が見つかった。石、土を除けた凹みに略平らにハンマー等で叩いて石を敷き詰め、砂・砂利・セメントを煉り、コンクリートを石の隙間に流し込み底盤を固める。

以前使われていた略平らな大きな岩を置き、水平器で略平らになる様に石を挟み、その石の隙間にコンクリート流して固めて以前と略変わらない高さまで積み上げ、前面に以前の大きな岩を置き、同高さに石を詰めてコンクリートを流して台座が接する位置

が水平になる様に水平器でコンクリート天板に仕上げた。



石積みとコンクリート練りと作業



本日の作業者

大きな石と同一高さに 西側鞍部上からの大日岳

大きな岩と同一高さに台座が乗る位置に仕上げたコンクリート天板に、径90cm・高さ3〜4cmのコンクリートの円形台座に仕上げる為に、6cm高さのベニヤ板型枠に明日コンクリートを流し込み台座を完成させる事にして、本日の作業を15時半前に終え、深仙宿に戻る。尚、梶野氏は日帰りの為14時過ぎに下山された。

深仙宿に戻り、香水水を汲みに行く、500Lのペットボトル一杯にするには約4分要した。汗をかいた体には冷たい香水水と香水水で洗って冷えた中玉トマトは何よりのご馳走であった。児嶋さんは、小屋の裏斜面にある枯木が倒れると小屋を壊す事になる事から、倒れないようにワイヤーを張る応急処置をされる。又、「深き山にすみける月を見ざりせば 思出もなき我が身ならまし 大峯しんせんと申す所にて月を見てよみける 西行法師」の歌碑板を設置された。



児嶋さん西行法師の歌碑板設置



各自調達の夕食



夕食は、各自で準備した夕食。冷たいビールが欲しいところであるが、セメント等の荷揚げのため、極力荷が軽くなる様にしたので割愛したが、野崎さんは紙パックのお酒を持参され、皆で少しずつ頂いた。

下界は猛暑に見舞われているだろうが、深仙宿は天然クーラーで、ゆったり過ごす中で明日の作業段取りを打合せる。

岩と台座が乗る位置を同一高さに均した上に、径90cm・厚さ3cmのモルタル台座にするには約30Lの砂が必要になるが、現在山頂にデポした砂では少し足りないと思われる。明日は、千丈平に運び上げられた善意の砂袋を山頂に揚げることにすると説明した。しかし、コンクリートを極力減らして、改修前の様に天然

の岩を生かした台座の方が良いのではとの話しになり、皆で協議して現在の岩の高さの天板の上に大日如来坐像を安置する結論に達した。

深仙宿には、テント3張。避難小屋には、兵庫の男性と女性修験者(金剛山・転法輪寺・司講)と我々5人が同宿する事になったが、児嶋氏はツエルト、椎木・野崎さんは灌頂堂で宿泊される。疲れもあり19時過ぎには就寝されたが、暑いので外に出ると面識のある菅原氏と同じ司講に所属されている女性修験者も出て来られて、満天の星空を眺めながら「継の窟」に行つて、熊野修験サポートの生熊さんと逢つた等雑談していると、螢が2匹飛んで来る、こんな高い所にも居るんだとビックリする。

行動タイム

太尾登山口7:55→8:35不動谷登山口分岐→9:25古田の森→10:10千丈平10:20→10:28捲き道崩落箇所ロープ張り10:40→11:05深仙宿(昼食)11:55→12:30大日岳石積みにコンクリート補強作業)15:30→15:55深仙宿(宿泊)。梶野氏は大日岳から14時過ぎに下山。

7月15日(日) 快晴午後一時薄曇

4時半過ぎに起床すると草地は夜露に濡れている。

昨日の協議の結果、本日参加者にはセメント・砂を荷揚げする必要がなくなった事から、沖崎氏に4時半には繋がらず、5時頃に携帯電話をかけ「セメント荷揚げ不要、登山口の砂を一般登山者が荷揚げしない様にして、千丈平分岐に揚げられた砂だけ運んで来て欲しい」と連絡した。

朝食前に千丈平に荷揚げデポした砂袋を深仙灌頂堂、大日岳山頂へ運び込むために千丈平へ。千丈平には32袋あり、各自6袋計30袋を運び降ろした。

朝食後、砂袋2袋は灌頂堂横にデポし、各自砂袋4袋を担いで

大日岳へ。



ご御来光を拝む



千丈平に荷揚げ砂袋



深仙宿に戻り朝食準備

コンクリート天板上の径90cm・高さ6cmのベニヤ板型枠を除けて、昨日台座の乗る位置の水平を出したが、中央部に凹みがありモルタルコンクリートを流して岩と同一高さの天板に仕上げると共に中央に発掘の古銭と現在の硬貨と趣意書を納める壺の型枠を置き台座を略完成させた。大日如来座像を据えた時点で再度調整する事にした。



大日岳へ出発前



略完成した石組み台座



その後、前面の岩の隙間にモルタル詰め、賽銭箱の置く石を据

える。又、木の根間に石を置きモルタルで固定する。略作業が終えた10時頃に登山者が登ってくる。何処かで見た顔と・・・グレート・トラバースの田中陽希さんだ！NHK取材班も同行。新宮山彦ぐるーぷの者で、昨年の秋の台風で、台座が少し傾いていたので大日如来坐像が転倒したため、台座を積み直してコンクリート補強作業を略終えた所であると説明すると「昨夜、持経宿に泊らせて頂いた」との事。

田中陽希さんは、三百名山一筆がきに挑戦中で、南奥駈道を辿り釈迦ヶ岳・八経ヶ岳に登り今夜弥山泊とのこと。南奥駈道はどうでしたかたと尋ねると「激しいアップダウンの連続で奥駈道を実感し思う存分堪能した」との事。快く記念写真撮影に応じて頂き同行NHK取材スタッフに撮って頂いた。

台座上に雨除けシートを張り、コンクリートで固めた踏石を踏まないように白いビニール紐を張り、中へ立ち入らないようにする。砂は約60kg、セメントは約30kgが余り、砂はコイン布袋に詰め直し山頂の木の根元にデポ、セメントは灌頂堂内で保管のため担ぎ降ろすことにした。



石組み台座完成！

田中陽希さんと撮る

台座上の雨除け

10時30分過ぎに大日岳から下山するも、前鬼から登ってくる会友を待つために、川島一人が大日岳西側鞍部で待機する。

大尾登山口組；昨日参加の梶野氏は、本日も早朝に先着され、本当にご苦労さんです。

瀧本さん達は、梶野氏に見送られ先に出発。新宮組が8時過ぎに到着して8時20分に大尾登山口から砂袋を担いで出発された。セメント・砂も荷揚げ不要を5時に連絡したのだが・・・。

千丈平でデポされた砂袋が増えた分を手分けして担って深仙宿に下る。暑い中、11時10分頃に深仙宿に着くと、田中陽希さんが昼食で休憩されておられ、「一緒に写真を撮りましょう」と言われて灌頂堂前で記念撮影を撮ってもらった。

大日岳から深仙宿に降りた児嶋・三井・野崎・椎木さん達から大日岳への砂荷揚げ不要を伝えて、灌頂堂横にデポする。

宿泊組の弁当・冷えたお茶を調達荷揚げしてくださり、ありがとうございます。昼食を持って川島が待機する大日岳西側鞍部へ。



新宮組・大尾登山口到着

千丈平の砂袋

田中陽希さんと記念撮影

大日岳西側鞍部に待機していると瀧本・斎藤さんが11時25分頃に砂を担いで登って来られ、又使う事があるだろう！と昼食を大日岳山頂ですると登って行かれた。

前鬼登山口組；前鬼登山口から登り先行の山川・岩本さんが砂を担って到着。沖崎さんから5時に連絡がありセメント荷揚げ不

要だが砂はいるとの連絡だったとの事。

11時40分過ぎに太尾登山口からの新宮組と遅れた前鬼登山口からの樋口・竹中・高階さんが一緒に到着され昼食。

昼食後に略完成の石組み台座を見に登る様に伝達して、川島は12時過ぎにセメントを担いで深仙宿に戻る。



深仙宿から大日岳へ



大日岳西側鞍部に到着



大日岳西側鞍部で昼食



大日岳西側鞍部で昼食



略完成の石組み台座を撮る



深仙宿に戻ると、三井・野崎さんは釈迦ヶ岳に登って登山口に帰ると出発されていた。

山川・岩本さんは、深仙宿小屋裏の倒れると小屋が壊れる可能性の高い枯木の処理方法検分に砂を担いで深仙宿に来られる。

椎木さんは、和佐又山小屋に宿泊して、明日は無双洞から七曜岳へ登るとの事から先に下山される。

13時過ぎに大日岳から深仙宿に戻られ(前鬼登山口を下る樋口・竹中・高階さん荷揚げの砂を持って来る)、全員で灌頂堂前にて記念撮影して、13時15分に深仙宿から下山する。



椎木さん下山前に記念撮影



灌頂堂前で記念撮影



瀧本さん達は、釈迦ヶ岳を経て下山。

千丈平で休憩していると鹿の群れが近づいて来る、直ぐに釈迦ヶ岳山頂を経た三井・野崎さんと合流、三井さん達は先行下山。途中、薄暗い雲に覆われ少し雨粒が落ちるが、直ぐに通り返り、陽が差して来て湿度が高くなり汗でびっしょりになる。

古田の森・不動谷分岐で小休止して、15時50分に登山口に戻ると三井さん達の車が発進したのが見えた。

上村さんはご主人の大阪の実家に立ち寄るため、梶野さんが送る。新宮組は16時過ぎに帰路へ。



千丈平木陰で小休止



鹿の群れが近づく



太尾登山口に戻る

最後に、猛暑の中、行事に参加ご協力して下さった方々に御礼申し上げます。7月22日に補強石組み台座に大日如来坐像を安置する予定にしています。

行動タイム

深仙宿5:05→5:35千丈平(砂袋運35)→6:10深仙宿(朝食)7:10→7:50大日岳→8:00台座仕上作業→10:00田中陽希・NHK取材班到着→大日岳10:30→10:35大日岳西側鞍部待機→11:25瀧本氏到着→11:30山川氏到着→11:45日帰り組到着(昼食)12:05→12:30深仙宿。

日帰り組：太尾登山口(瀧本さん)7:45発)8:20→10:30千丈平→11:10深仙宿11:25→11:45大日岳西側鞍部(昼食)→13:00深仙宿(椎木氏12:50上)13:15→13:55千丈平14:10→15:05不動谷分岐→15:50太尾登山口16:00解散帰路く。

(記：川島、写真：梶野・川島)